生物多様性 くまもとCだより

第2号！（H29夏）

平成29年7月1日発行
発行元：熊本市環境局
環境推進部 環境共生課
TEL:096-328-2352

熊本市は平成28年3月、「熊本市生物多様性戦略～いきもん つながる くまもとCプラン～」を策定しました。
・・・長い名前ですみません、「Cプラン」と呼んでください。
これは、私たちのまちや暮らしを自然と寄り添いながら、魅力的にしていくための計画。
だけど、「そもそも生物多様性ってなに？」…基礎的なことから最近の話題までをお知らせする
「生物多様性くまもとCだより」、第2号をお届けします！

Cプラン生物多様性を守る取り組み、はじめています！！

Cプランの「C」って一体何？このCプランを見たときに、疑問に感じませんでしたか？

この「C」には、上記の４つの意味があります。つまり、自然豊かな都市だからこそ、自然のめぐみに感謝し、人と自然がともに生きるまちくまもとを目指し、みんなで連携・協働して、保全していくために、挑戦していきます！という意気込みが込められています。

そして、そのCプランは、第1章～第6章で構成されていて、以下の内容が記載されています。

第1章：Cプランの目的や、法律や熊本市の総合計画等との位置づけなどについて
第2章：生物多様性とは何か、少々わかりにくい生物多様性に関する基本的な内容について
第3章：熊本市の自然環境や生物多様性の特徴、熊本市内に残された大きな自然と身近な自然、そして、熊本市の生物多様性の現状と課題について
第4章：このCプランを通して、2050年に描く熊本市の望ましい姿について
第5章：第4章で記載した望ましい姿の実現に向けた基本戦略と行動計画について
第6章：Cプランを遂行するための推進体制と進行管理について

また、Cプランは、上記の6章のほかに、前文や用語解説、資料編があり、全て含めると170ページを超えるボリュームがあります…。

Cプランには概要版もあるため、こんなに読みきれないという方は、概要版を読んでもらいたいところですが、その前に是非最初に見てもらいたい部分があります。

それは、Cプランの第1章の前に記載されている前文です。この前文は、1ページ半くらいの量ですが、ここには、Cプランの概要の更に概要が、そして、Cプランに込めた思いが綴られています。

そして、このCだよりでは、熊本市の身近な自然や生きもの、生物多様性に関する取り組みなどについて、Cプランでは語られなかったことなどを紹介していきます。

『熊本市生物多様性戦略』（左：本編、右：概要版）は、環境共生課で配布しておりますほか、熊本市ホームページからダウンロードも可能です。ぜひご一読ください！

くまもと　Cプラン

「探検！いきものワンダーランド☆～あいことばは生物多様性～」開催しました！

毎年５月２２日は、国連が定めた「国際生物多様性の日」です。これにあわせて、５月２０日に熊本市動植物園にて、「探検！いきものワンダーランド☆～あいことばは生物多様性～」を開催しました。これはCプランの基本戦略２「学び・つながる」における取組で、生物多様性に関する情報発信や自然体験等を担う熊本博物館・動植物園・環境総合センター・環境共生課の4課が連携してイベントを開催するのは初の試みです。ともすると難しく聞こえる“生物多様性”という言葉。なじみのない方もまだ多いと思われることから、学芸員や獣医師を含む各課の担当者が各々の分野での経験や知識に基づき、アイデアを出し合いました。

当日の企画については、「楽しく学べる」「体験する」ことをメインに、来場者に日々の暮らしに関わる生きものや身近な生きものから生物多様性について知ってもらえるようなものを考えました。

↑ガイド「ゾウから考える生物多様性」

↑昆虫ミニ講座　講師による解説

動植物園に隣接する江津湖で草花や虫などを学芸員と観察しつつ散策する「江津湖のいきもの観察会」。動植物園のヒツジから刈った毛を専用の道具で紡いで毛糸を作りながら、人と家畜との関わりについて学ぶ「ヒツジの毛つむぎ教室」、生きたクワガタムシを観察しながら、外国産ペット昆虫の正しい飼い方について学ぶ「昆虫ミニ講座」、そのほか生物多様性に関するパネル展示、動物ガイドなどを行いました。

↑緑の少年団のみなさんによる植樹

↑江津湖のいきもの観察会

また、植樹をとおして生物多様性について考える「グリーンウェイブ」の一環として、熊本市緑の少年団の皆さんとクヌギの木の植樹を行いました。当日は天候にも恵まれ、多くのお客様にご来場頂きました。動植物園で楽しく過ごした一日の思い出とともに、今回のイベントが身近ないきものや生物多様性についての関心を深めて頂くきっかけになればと思います。

江津湖のほとりから

江津湖地域で「指定外来魚」を釣り上げたら、回収いけすや回収箱に入れる取り組みが始まり、3年目になりました。今回は、今までの回収実績や回収の多いポイントについてお知らせします。

←指定外来魚６種

★：回収いけす

□：回収箱

指定外来魚の平成29年3月までの回収実績は、718匹（1年目：461匹、2年目：257匹）となりました。

各回収地点で指定外来魚が多く回収された地点は、1位：D地点 296匹、2位：K地点 117匹、3位：B地点 82匹となっています。その周辺には指定外来魚が多いのか、釣り人が多いのか、理由は様々考えられますが、今後指定外来魚の釣りをされる際には、是非ご参考ください。

江津湖固有の生きものを守るためにも、引き続きみなさまのご協力をお願いいたします。

「生物多様性」って何なんだ！？

「暮らしの土台」編

「生物多様性」って何だろう？
生きものがたくさんいること？？
―いやいや、それだけじゃない、
ふか～～～～い世界が…

前回、**「種（しゅ）の多様性」**、**「遺伝子の多様性」**、**「生態系の多様性」**の3つの「生物多様性」についてお伝えしました。ただ、「私たちと何の関係があるの？」と思われた方も多いかもしれません。そこで今回は、生物多様性が私たちの暮らしとどんな関係があるのかについて、お知らせしたいと思います。

◇生物多様性のめぐみ『生態系サービス』

豊かな自然や多様な生きものたちは、それ自体が素晴らしいというだけではなく、私たちが生きていくうえで、様々な「めぐみ」を提供してくれています。こうした生物多様性のめぐみを**「生態系サービス」**といいます。この生態系サービスは、**「供給サービス」「文化的サービス」「調整サービス」「基盤サービス」**の4つに分けることができます。

１．供給サービス

私たちが生きるために摂取する食料は、生活の場の建物の材料となる木材などを提供してくれます。

衣類の原料となる綿・毛などの繊維や、カビや酵母といった微生物は医薬品の原料になったり、そのはたらきが発酵食品に利用されたりしています。

２．文化的サービス

祭りや信仰、食文化など、地域に伝わる多様な文化も、豊かな自然に影響を受けています。

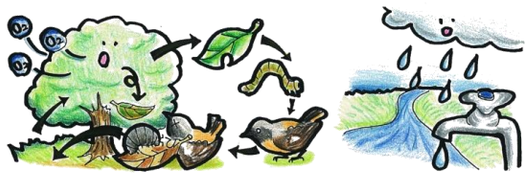
風景に感じる安らぎやレクリエーション、観光の機会などとして、私たちが享受しているものです。

３．調整サービス

気候を調整したり、自然災害を和らげる働きです。例えば地球全体で見たときに、豊かな森は水を蓄えて陸水の量を調節し、また二酸化炭素を吸収することで地球の温度が上がりすぎないように調整しているのです。

４．基盤サービス

栄養豊かな土壌や植物が作り出す酸素、水の循環や浄化などをいいます。私たち人間を含む、全ての生物を支える大切な役割を果たしています。



このように、私たちの生活は、生態系サービスなしでは成り立たないことがわかります。私たちは、将来にわたってこのめぐみを受けることができるように、生物多様性を守り、上手に使っていく必要があります。

★次回は、「生物多様性の危機」編です。

『金峰山系の生物多様性を楽しみ、知って、守ろう！』

NPO法人コロボックル・プロジェクト　甲斐原　巖氏

金峰山系では金峰三山を始め金峰カルデラを形成する様々な山・森があり、多くの川が流れ出て、「金峰山湧水群」も湧き出し、田んぼや畑を潤し、有明海へ流れ込んでいます。

コロボックル探検隊では、生物多様性保全上重要な里地里山（環境省）である「柿原迫谷の里」を中心に、「成道寺川で遊ぼう～野草の天ぷら」「ホタル・ムササビ観察」「里山キャンプ」「カヤネズミ調べ」「花・花プロジェクト」などで、野草を摘んだりアブラボテやスナヤツメを捕まえたり、ゲンジ・ヘイケボタルやムササビなどを観察したり、星空の下テントで眠ったり、不耕作地でヒマワリ・菜の花を栽培したりして楽しんでいます。

→「ほら、採れたよ！」

↑二ノ岳山頂（背景は三ノ岳！）

金峰山学講座では、嶽麓寺跡で「花祭り」を復活させたり、「金峰山湧水群」を巡って湧水コーヒーや川魚料理を味わったり、「古道トレッキング」で金峰山系の自然や歴史・文化などを知ったりしています。

このように金峰山系は生物多様性の恵みにあふれていますが、道路工事による大改変や川浚いによる課題、外来種や温暖化による危機も多く、これからもモニタリング調査や諸活動を継続して、参加された方々を始め関係機関とのパートナーシップで守っていきます。

みんなで未来に残したい熊本市の自然環境 ②

熊本市を代表する山地といえば、金峰山を思い浮かべる人が多いと思います。市内の近傍にありながら自然が豊かな場所として人々に親しまれている金峰山は、山頂から熊本市内を一望でき、登山愛好家が多い山としても有名です。

金峰山はスギ・ヒノキや常緑広葉樹の森林が広く分布、熊本市における森の拠点を形成し、「金峰山県立自然公園」に指定されています。

また湧水が豊富で、山麓部ではそれを利用した水田が営まれるなど、ムササビ、カヤネズミといった里地里山の生きものの重要な生息・生育地となっている一方、熊本西環状線の建設工事など開発が進んでいる地域でもあります。自然環境やそこに生息・生育する生きものの保全やすでに進められている工事における適切な配慮が必要です。森林の中には、植栽後の手入れが不十分だったり、利用されずに放置されている竹林もあり、今後、森林をどのように整備し、管理していくかが一つの大きな課題となっています。

↑カヤネズミと球巣

熊本市　保存樹木探訪　～第２回　保存樹木の現況～

第2回の保存樹木探訪では、保存樹木の現況をご紹介します。保存樹木は、605本（平成29年6月末時点）指定されています。様々な樹種が指定されていますが、特に多い樹種はイチョウ（200本）とクスノキ（146本）です。また、植栽場所の多くが寺社であり、地域の方々が所有・管理されています。しかし、保存樹木は、巨樹や老木であるため、管理は容易なことではありません。熊本市は管理の一部を助成していますが、近年は所有者・管理者の方からご相談をいただき、枯損や伐採のため、指定解除もされています。（平成28年度20本指定解除）

様々な事情がある中で、保存樹木も地域からの愛着があるからこそ、保存樹木として現存しています。

今回ご紹介した情報を念頭に保存樹木を見ると、新しい発見があるかもしれませんね。次回からは、いよいよ各保存樹木を掘り下げてご紹介します。

↑寺社の保存樹木
（秋津沼山津神社）

↑保存樹木（イチョウ）と
それを示す標柱

～編集後記～　今年度最初のCだよりを発行することができました！

神戸などで強い毒性を持つ特定外来生物のヒアリが発見され、人々の脅威となっていますが、人間以外の生きものたちは外来生物の脅威にもっとさらされています。

生きものの目線になってちょっと熊本市の自然を見渡してみる、そんな時間がもてたらなと思います。（環境共生課）

くまもといきもんノート

～２．梅雨の季節に咲く草花・ネジバナ～

↑花色の濃淡やねじれ具合は様々

6月下旬から7月にかけて、草地や芝生などでネジバナが咲き始めます。名前のとおり、ねじれるように茎に巻きつく形で小さなピンク色の花をたくさんつける可愛らしい花です。日当たりの良い場所に多く、群生して咲いている様子もよく見られます。ランのなかまで、発芽や栄養の取り込みには土壌中の菌類との共生関係が不可欠です。そのため、生えている環境を変えてしまうと、うまく育たないことがあります。

見つけたら、ねじれている方向を確認してみましょう。右巻き？左巻き？あるいは、ねじれていないかもしれません。

外に出る機会が減ってしまいがちな季節ですが、散歩などの際には足もとの草花にも目を向けて、ぜひ新たな楽しみを見つけ出してみて下さい。

（文・写真）熊本博物館 学芸員　山口　瑞貴